

一般社団法人有田観光協会フリーペーパー  
〈アリタノヒビキ〉0号(創刊準備号)

取材協力 藤巻製陶/TEL.0955-42-3012  
乃利陶窯/TEL.0955-43-2890 <http://noritokama.sagafan.jp/>  
俊右衛門窯/TEL.0955-43-3727 <http://www.shun-emon.com/>

アクセス 唐船城/松浦鉄道大木駅より徒歩10分  
泉山磁石場/JR上有田駅より徒歩10分

発行元 一般社団法人 有田観光協会  
住所/佐賀県西松浦郡有田町岩谷川内 2-8-1  
TEL.0955-43-2121 FAX.0955-43-2100 <http://www.arita.jp/>  
E-mail [arita-info@castle.ocn.ne.jp](mailto:arita-info@castle.ocn.ne.jp)

企画制作・編集 アリタノヒビキ 実行委員会

表紙写真/泉山磁石場の採掘口から望む英山(はなぶさやま)

〈特集〉

2つの有田のルーツ

「唐船城、八百年。」  
「有田焼、四百年。」

ア  
リ  
タ

ノ

ヒ  
ビ  
キ

二〇二二年三月 0号















ヨーロッパに輸出されて大ブレイク。同じ頃、佐賀藩は大川内山に御用窯を開き、最上級の泉山陶石と技術の優れた御用職人を使って、有力大名への献上品の製造を行っていた。

しだいに有田の磁器が庶民階級まで普及するにつれて量産体制に入り、明治後期には鉄分の少ない熊本・天草陶石を原料とした製品が主流に。泉山陶石は粘り気がなく、成形や焼成に難点があるため、昭和初期には泉山陶石の使用比率は30%を割り込むまでになってしまった。

しかし、泉山の原料で作られた白磁

戻って、泉山陶石の可能性を再構築したいと、藤本さんらは窯主たちに呼びかけている。

「泉山は、今と昔の陶工者たちとの魂の格闘の場だと思っています。いつの時代もやきものだけで食べていくには困難な状況があり、でもそんな中でも先人たちは知恵を絞り、団結して、この泉山を後世に残してくれました。これからの未来、ここが再び宝の山となるよう可能性の道筋を探して、若手に引き継いでいくことが我々の使命だと思っています」

有田焼創業400年を前に、一部の窯主たちの間では早くも新たななる一歩が模索し始められている。低迷しているやきもの業界に新風を起すやきものが、今ゆっくりとこのまちで生まれようとしている。

